令和７年度（２０２５年度）　学校教育指導資料

「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」のためにⅡ

海洋に関するＳＴＥＡＭ教育の授業の様子から（Ｒ6.9.2６　於：函館市立あさひ小学校）

函館市教育委員会では，函館市教育振興基本計画の実現を図るため，令和７年度教育行政執行方針に基づき，「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」の実現を目指し，この度，函館市の学校および児童生徒の実態を踏まえ，学びの質を一層高める指導に向けた要点を示した資料を作成しました。

函館市教育委員会

令和７年度（２０２５年度）の重点事項
「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」のためにⅡ

児童生徒を取り巻く環境の変化等に伴い，教育におけるニーズが多様化しており，学校においては，一人一人の状況に応じたきめ細かな対応が，これまで以上に求められています。

函館市の学校に在籍する全ての児童生徒が，自分のよさや可能性を認識するとともに，持続可能な社会の創り手となることができるよう，これまでの「子どもに寄り添う指導・支援の充実」の取組を支えとして，「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」を目指します。

＜各種調査等から見られる函館市の教育における現状＞

令和６年度　全国学力・学習状況調査より

平均正答数・平均正答率

〈小学校〉

	国語	算数
函館市	9.2 問／14 問 66%	9.2 問／16 問 58%
全道	9.3 問／14 問 67%	9.7 問／16 問 61%
全国	9.5 問／14 問 67.7%	10.1 問／16 問 63.4%

〈中学校〉

	国語	数学
函館市	8.1 問／15 問 54%	7.6 問／16 問 47%
全道	8.6 問／15 問 58%	8.2 問／16 問 51%
全国	8.7 問／15 問 58.1%	8.4 問／16 問 52.5%

※　函館市，全道の平均正答率は，小数点以下を四捨五入した整数値で結果を示しています。
　　上段：平均正答数，下段：平均正答率

令和６年度全国学力・学習状況調査の結果において，平均正答数で比較すると，函館市の状況は，全国との差が各教科とも 0.9 ポイント以内であり，概ね全国と同程度です。

各学校においては，引き続き自校の子どもの現状を把握し，育成を目指す資質・能力の確実な定着に向け，学習の質を一層高める授業改善に，教職員が一丸となって取り組むことが大切です

児童生徒質問調査より

小・中学校ともに，次の質問では，「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が，全国平均より**高い傾向**にあります。

○　授業で，ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用しましたか

○　いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか

小・中学校ともに，次の質問では，「当てはまる」「どちらかといえば，当てはまる」と回答した児童生徒の割合が，全国平均より**やや低い傾向**にあります。

○　分からないことや詳しく知りたいことがあったときに，自分で学び方を考え工夫することはできていますか

○　各教科などで学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

○　学習した内容について，分かった点やよく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか

次の質問では，小学校で「１時間以上」，中学校で「２時間以上」と回答した児童生徒の割合が，全国平均より**低い傾向**にあります。

○　学校の授業時間以外に，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか

各学校における，１人１台端末を効果的に活用した，児童生徒一人一人の可能性を引き出すきめ細かな指導や，教育活動全体を通じて，いじめはどんなことがあっても許されないという意識を徹底させるための指導の成果が着実に表れています。

一方，児童生徒が，主体的に学び方を考えたり，学習した内容を生かしながら自分の考えをまとめ，次の学習へつなげたりするための指導や支援の充実が求められています。

以上のことを踏まえ，令和６年度に引き続き「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」の実現を目指し，次の３つの視点から，各学校の教育活動に生かしていただくよう，以下の構成で本資料を作成しました。

令和７年度（２０２５年度）　学校教育指導資料

「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」のためにⅡ

Ⅰ　すべての子どもの可能性が輝くように

○　学習の基盤となる資質・能力の育成

○　ＩＣＴを活用した「個に応じた指導」の充実

○　学習評価の効果的な実施の在り方

Ⅱ　すべての子どもが安心して学べるように

○　いじめの未然防止，早期発見・早期対応

○　不登校児童生徒への対応と支援の充実

Ⅲ　函館市の教育の充実を目指して

○　海洋に関するＳＴＥＡＭ教育の推進

○　幼児期の教育と小学校教育の連携・接続

Ⅰ　すべての子どもの可能性が輝くように

○　学習の基盤となる資質・能力の育成

学習指導要領では，子どもの発達の段階を考慮し，言語能力，情報活用能力（情報モラルを含む），問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう，各教科等の特質を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとされており，教育課程全体を見渡して育んでいくことが重要です。

言語能力の育成

言語能力は，全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものであり，子どもの学習活動を支える重要な役割を果たすものです。子どもの言語能力の育成を図るために，全ての教科等においてそれぞれの特質に応じた言語活動を充実させることが大切です。

◆　言語能力の育成に向けたポイント

①　言語活動を教師が実際に行うなどして，目標を達成した子どもの姿を想定する
②　子どもが主体的に思考・判断・表現し，言語活動に取り組む場面を設定する
③　言葉に着目して試行錯誤しながら，子どもが自ら学習を進める場面を設定する

【参考】令和６年度南北海道教育センター専門研修「授業改善Ⅰ」学習指導案

情報活用能力の育成

情報活用能力は，様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，情報および情報技術を適切かつ効果的に活用して，問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力です。日常的に情報技術を活用できる環境を整え，情報技術を適切に活用した学習活動の充実を図ることが大切です。

◆　情報活用能力の育成に向けたポイント

①　キーボード入力やインターネット上の情報の閲覧など，基本的な操作を習得する場面を設定する
②　情報を整理・分析したり，得られた情報を分かりやすく発信・伝達したりする場面を設定する
③　プログラミング的思考，情報モラル，情報セキュリティ等に関する資質・能力を身に付ける場面を設定する

【参考】令和６年度南北海道教育センター専門研修「授業改善Ⅱ」学習指導案

問題発見・解決能力の育成

問題発見・解決能力は，各教科等において，物事の中から問題を見いだし，その問題を定義し解決の方向性を決定し，解決方法を探して計画を立て，結果を予測しながら実行し，振り返って次の問題発見・解決につなげていくために必要な資質・能力です。各教科等で身に付けた力を統合的に活用できるように充実を図ることが大切です。

◆　問題発見・解決能力の育成に向けたポイント

①　子どもが問題を見いだす，もしくは自分事の問いをもつことができる学びの入り口を設定する
②　予想，仮説，見通しなどを考える場面を設定する
③　個または集団による検討，吟味，創出を支える場面を設定する
④　学び得たことの価値を振り返る場面を設定する

【参考】令和６年度南北海道教育センター専門研修「授業改善Ⅲ」学習指導案

○　ＩＣＴを活用した「個に応じた指導」の充実

社会の変化が加速度を増し，複雑で予測困難なものとなる中，児童生徒が自らの将来を見通し，社会の変化を踏まえながら，生涯にわたって学び続けていく力を身に付けることが求められています。学校においては，ＩＣＴを活用しながら「個に応じた指導」を充実させ，児童生徒が自ら学習を調整しながら学んでいくことができる力の育成を図ることが重要です。

「個に応じた指導」の充実を図るために

「個に応じた指導」は，学習内容の確実な定着を目指す「指導の個別化」と，学習を深め，広げることを目指す「学習の個性化」の２つに整理されます。

引用：「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」（文部科学省）

「指導の個別化」	「学習の個性化」
□　一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し，個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めること。 （児童生徒自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことなども含む）	□　個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて，学習を深め，広げること。 （児童生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えていくことなども含む）

「個に応じた指導」の充実

ＩＣＴを活用し，「個に応じた指導」のさらなる充実を

ＩＣＴを効果的に活用することにより，自らの疑問について深く調べることや，自分に合った進度で学習することが容易になります。ＩＣＴを積極的に活用し，「個に応じた指導」のさらなる充実を図ることが大切です。

各教科におけるＩＣＴを活用した「個に応じた指導」の例

【国語】
・インターネットを活用して学習課題に関連する情報を調べ，集めた情報を内容に応じて整理する。
・プレゼンテーションソフトを活用して，各自のテーマに即した発表資料をそれぞれ作成する。

【体育・保健体育】
・動画を繰り返し視聴したり，スローモーションで見たりすることで，技能のコツや動きのポイント等，視点をしぼって話し合う。

【理科】
・専門機関のＨＰ等から，それぞれが自ら設定した課題のデータを取得し，そのデータを分析・解釈する。

【音楽】
・自分たちの演奏を録音や録画で残すなど，学習履歴を蓄積し，一人一人の学習の振り返りや成果の確認に生かす。

【算数・数学】
・個人思考の場面で，ＩＣＴ端末に配付されたワークシートを使って，自分の考え等を書き込む。

引用：「ＧＩＧＡスクール構想を浸透させ　学びを豊かに変革していくカタチ　ＳｔｕＤＸ　Ｓｔｙｌｅ」

○　学習評価の効果的な実施の在り方

学習評価は，学校における教育活動に関し，子どもの学習状況を評価するものです。教師が子どもの学習状況を的確に捉え，指導の改善を図るとともに，子どもが自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるよう，学習評価の在り方を改善することが重要です。

学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり，まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。そのうえで，学習指導要領の目標や内容，「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて進めていくことが大切です。

【単元ごとの学習評価の進め方】

Ⅰ　単元の目標 単元の評価規準 を作成する	学習指導要領の目標や内容，学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
２　「指導と評価の計画」を作成する	Ⅰを踏まえ，評価場面や評価方法等を計画する。 どのような評価資料を基に，（Ｂ）と評価するかを考える。 「努力を要する」状況（Ｃ）への手立て等を考える。
授業を行う	２に沿って観点別学習状況の評価を行い，子どもの学習改善や教師の指導改善につなげる。
３　観点ごとに総括する	集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的評価（Ａ・Ｂ・Ｃ）を行う。

指導と評価の一体化

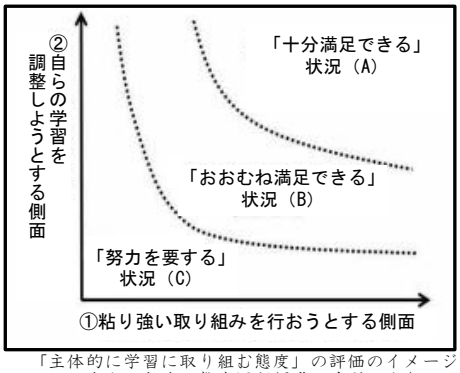
教師の授業改善や，子どもの学習の改善のために，学習評価の観点や頻度の在り方，また形成的評価と総括的評価の効果的な使い分けの在り方を検討することが大切です。

形成的評価
指導を改善し子どもを伸ばすために行われる見取り

総括的評価
最終的な学習成果の判定

・教師が学習の成果を的確に捉え，主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る，いわゆる「指導と評価の一体化」の実現が期待される。
・目標を具体的にイメージすると，学習状況を把握しやすくなり，自ずと形成的評価が促される。

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価について】



「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ
令和３年度　教育課程編成の手引　より

「思考・判断・表現」等と一体的に評価していく

①　知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面

②　①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面

の二つの側面を評価することが大切です。

Ⅱ　すべての子どもが安心して学べるように

○　いじめの未然防止，早期発見・早期対応

「いじめの芽」は，どの児童生徒にも生じ得るという緊張感をもち，いじめが児童生徒の心身に及ぼす影響について理解を深め，未然防止の取組や，組織的な早期発見・早期対応の取組を進めることが重要です。

いじめ防止の具体的な取組〈例〉

未然防止

○　児童生徒が中心となり，主体的に考え，話し合う集会等の実施
○　子ども理解支援ツール「ほっと」等のアセスメントツールの活用

子ども理解支援ツール「ほっと」を活用しよう！！
（北海道教育委員会）

早期発見・早期対応

○　いじめに関するアンケートの定期的な実施
○　相談窓口の周知（校内，市教委等）
○　ＳＣ，ＳＳＷ等の活用

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLO プラン」（文部科学省）

「いじめの芽」，「いじめの兆候」も「いじめ」

いじめ防止対策推進法に基づき，いじめを認知することが求められています。認知件数が多い学校は，教職員の目が行き届いているあかしであり，組織としていじめを積極的に認知し，対応することが大切です。

「いじめの認知について」
（文部科学省）

「函館市いじめ防止基本方針」の改訂

令和６年８月に改訂された「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」（文部科学省）等を踏まえ，令和７年３月，「函館市いじめ防止基本方針」を改訂しました。

改訂のポイント

○　いじめの防止等のための役割と取組
- **学校は，**「社会に開かれたチーム学校」として，いじめの未然防止，早期発見・早期対応に努めます。
- **保護者は，**子どものインターネット利用を適切に管理し，インターネットを適切に活用する能力の習得の促進に努めます。

「函館市いじめ防止基本方針」
（函館市教育委員会）

○　重大事態への対応
- **教育委員会は，**重大事態が発生した際には，教育委員会職員等を迅速に派遣します。
- 重大事態調査を行う際には，公平性・中立性が確保された調査組織となるよう関係機関等と連携します。

「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」
（文部科学省）

※　本改訂等を踏まえ，各学校のいじめ防止基本方針等の点検や見直しを進めることが大切です。

○　不登校児童生徒への対応と支援の充実

令和５年度の本市独自の調査から，小学校・中学校ともに「学校に対しやる気が出ない等の相談があった」が，不登校児童生徒について把握した事実として最も多いということが分かっています。本市の傾向を踏まえつつ，未然防止，早期発見・早期対応，継続的な支援を一人一人の状況に応じ，全ての教職員で組織的に進めることが重要です。

全ての児童生徒が「学校は楽しい」～魅力ある学校づくり（未然防止）

新たな不登校を生まないためには，全ての児童生徒が「学校は楽しい」「学校が心の居場所になっている」「学校が自分にとっての意味のある大切な場所になっている」と実感できる学校・学級づくりを進めることが大切です。

児童生徒が安全・安心な居場所となるよう
- □　個性を発見する
- □　よさや可能性を伸長する
- □　社会的資質・能力の発達を支援する

自己存在感や自己肯定感
充実感を高める働きかけ
- □　声をかける　□　励ます
- □　賞賛する

いじめ等の問題行動を許さない学校づくり
- □　児童生徒によるいじめや暴力行為を許さない学校
- □　教職員による体罰や暴言等，配慮の欠けた言動や指導などを許さない学校

自己存在感の感受を促進したり，共感的な人間関係を育成したりする授業
- □　児童生徒が「自分も一人の人間として大切にされている」と感じる授業
- □　互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団づくりを促進する授業

アセスメントに基づいた対応（早期発見・早期対応）

不登校の背景にある重要な要因・背景を見落とさないよう，多面的かつ的確に児童生徒の状況を把握し，支援の目標や方向性，具体的な対応策などを検討し，全教職員で共通理解の下，組織的・計画的に支援することが大切です。

＜着目点～児童生徒間の関係＞
- □　いじめの情報がある
- □　悪口・陰口を言われている
- □　孤立している
- □　気まずくなっている
- □　相談できる友達がいない　　など

＜着目点～学習面＞
- □　学習につまずきがある
- □　極端に嫌いな教科がある
- □　グループ学習が苦手である　など

＜着目点～教職員との関係＞
- □　教職員に反発している
- □　教職員の前では本心を見せない
- □　教職員を避ける　　など

＜着目点～情緒面＞
- □　すぐにイライラしてしまう
- □　自分の気持ちを抑えすぎる
- □　気分が落ち込むことが多い　など

※　出典：「不登校支援ガイドブック　全ての子どもの笑顔のために～社会的自立に向けた支援のポイント～」北海道教育委員会（令和５年１２月）

学校・関係機関が連携した支援（継続的な支援）

不登校支援のためのコーディネーターを中心に，一人一人に応じた支援につなげましょう。

※　参考：「令和６年度　学校教育指導資料『誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育』のために　８ページ」

不登校児童生徒が学校外の機関等で学習を行っており，文部科学大臣が定める要件に当てはまる場合は，学習の成果を成績に反映していきましょう。

※　参考：「不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果の成績評価に係る法令改正について」（文部科学省ＨＰ）

Ⅲ　函館市の教育の充実を目指して

○　海洋に関するＳＴＥＡＭ教育の推進

急速な技術の進展により社会が激しく変化し，多様な課題が生じている今日においては，各教科等の学びを基盤としつつ，様々な情報を活用しながらそれらを統合し，課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められています。

このような中，ＳＴＥＡＭ教育は，「各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育」とされており，本市においては，地理的特色や地域資源等の特色を生かした「海洋」をテーマとしたＳＴＥＡＭ教育の推進を図ります。

ＪＡＭＳＴＥＣの海洋ＳＴＥＡＭ教材

国立研究開発法人海洋研究開発機構（通称「ＪＡＭＳＴＥＣ（ジャムステック）」）が開発した海洋に関するＳＴＥＡＭ教育の教材等を活用し，地域資源の一つである「海洋」をテーマにした教育を進めることで，「創造的に探究する力」や，自分たちの住む地域への理解を深め，愛着や誇りを育むことにつながるなど，様々な教育効果が期待できます。

海洋ＳＴＥＡＭ教材は，ＪＡＭＳＴＥＣならではの豊富な画像・映像を用いて，実際の授業で使用するＳＴＥＡＭ教材を学習指導要領に基づいて作成されており，下記のＵＲＬまたは二次元コードからアクセスし，無償でダウンロードすることができます。

ＪＡＭＳＴＥＣ　海洋ＳＴＥＡＭ教材ライブラリー　https://www.jamstec.go.jp/steam/

○　幼児期の教育と小学校教育の連携・接続

幼児教育施設で育まれてきた資質・能力を，小学校教育を通じてさらに伸長していくためには，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに，幼児教育施設と小学校の教職員が子どもの成長を共有するなどの連携を図るとともに，小学校ではスタートカリキュラムも活用しながら幼児期の教育と小学校教育との接続の一層の強化を図ることが重要です。

幼児期の教育と小学校教育の違い

幼児期の教育と小学校教育では，遊びや生活を通しての学びと各教科等の授業を通した学習という違いがあるものの，子どもの発達や学びは幼児期と児童期でつながっていること，また，両者の教育の目的・目標が連続性・一貫性をもって構成されていることの前提に立つことが大切です。

幼児期の教育（幼稚園・保育所・認定こども園）

目標	・「感じる」「気付く」「考える」「試す」「工夫する」「関わる」「表現する」等の，いわばその後の教育の方向付けを重視
教育課程	・５領域（健康，人間関係，環境，言葉，表現）を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程等 ・子どもの生活リズムに合わせた１日の流れ
教材	・身の回りの「人・もの・こと」が教材
環境の構成	・遊びや生活を通して総合的に学んでいくために工夫された環境の構成
小学校教育との接続	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に，小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し，幼児期にふさわしい生活を通して，創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培うようにする

小学校教育

目標	・「～ができるようにする」といった，具体的な目標への到達を重視
教育課程	・各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程 ・時間割に沿った１日の流れ
教材	・教科書が主たる教材
環境の構成	・系統的に学ぶために工夫された学習環境
幼児期の教育との接続	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより，幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し，児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能になるようにする

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

幼児教育施設における教育の基本に基づいて，幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより，幼児期の教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

幼児教育施設における幼児期の教育を通して，小学校以降の生活や学習の基盤を育成しており，小学校での学びは，ゼロからのスタートではないことをおさえることが大切です。

幼児期の教育と小学校教育をつなぐスタートカリキュラム編成のポイント

児童や学校，地域の実態を踏まえてスタートカリキュラムを編成し，その中で，生活科を中心に，合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など，指導の工夫や指導計画の編成を行うことが大切です。

基本的な考え方

- 子どもの発達を踏まえ，時間割や学習活動を工夫する
- 生活科を中心に合科的・関連的な指導の充実を図る
- 安心して自ら学びを広げる学習環境を整える

安心して学べる環境構成

- 活動の見通しがもてる視覚支援
- 友達との距離が縮まる机配置
- シンプルで分かりやすい教室掲示
- 笑顔で支える

等

※　スタートカリキュラムの詳細は，令和７年３月発行の「子どもの発達や学びをつなぐスタートカリキュラム　ハンドブック～幼保小の円滑な接続を目指して～」を御覧ください。